お知らせ

中国四国防衛局

第８２回　岩国飛行場藻場･干潟回復調査研究委員会審議概要

１　開催日：令和６年３月１日（金）

２　場所：広島市内（広島グランドインテリジェントホテル）

３　委員会審議概要：

委員会では、周辺藻場･干潟における環境調査結果（令和５年７月から１２月まで）、藻場・干潟回復モニタリング調査結果（令和５年７月から１２月まで）及び２０２４年度藻場・干潟回復等調査計画（案）について審議された。
結果は次のとおりである。

(1) 周辺藻場･干潟における環境調査結果の報告（令和５年７月から１２月まで）

当該環境調査は、事業の周辺の藻場･干潟環境の状況を把握し、造成域の順応的管理の遂行に資することを目的とする。アマモ場の分布幅は、平成９年６月を１として、変化をモニタリングしている。

平成１６年の台風により調査区域内のアマモ場がほとんど消失し、平成１８年まで毎年の台風によりその状態が続いたが、令和５年７月から１２月までのアマモ場の分布幅は、北側調査測線で０．０～０．４前後、南側調査測線で０．２～０．７前後を示した。

(2) 藻場･干潟回復モニタリング調査結果の報告（令和５年７月から１２月まで）

ア　Ｃ区域アマモ場モニタリング調査

Ｃ区域アマモ場は、周辺と同様な藻場になることを目標とし、評価時期は調査開始後３年目（中間評価）と５年目（目標達成評価）を基本としている。現在は、３年目である。

生育可能面積は、目標面積の約３ｈａに達していた。また、アマモ場の株密度･被度は天然藻場（※対照区）と概ね同様な変動を示していることから、引き続きモニタリングを行うこととした。

イ　新設護岸岩礁性藻場調査

（新設護岸岩礁性藻場は、周辺と同様な藻場になることを目標とし、評価時期は調査開始後２年目（中間評価）と３年目（目標達成評価）を基本としている。現在は、北側護岸南部分岩礁性藻場の３年目の調査を行っており、２年目の調査が完了したため、中間評価を行った。）

北側護岸南部分岩礁性藻場モニタリング区の岩礁性藻場面積は０．４ｈａ以上あり、目標面積に達していた。また、北側護岸南部分岩礁性藻場モニタリング区の被度、湿重量及び種類は、岩礁性藻場対照区と概ね同様な変動を示していた。

以上の結果から、北側護岸南部分岩礁性藻場では、回復目標達成は可能と判断され、引き続きモニタリングを行うこととした。

(3) ２０２４年度 藻場･干潟回復等調査計画(案)

周辺藻場･干潟における環境調査及び藻場･干潟回復モニタリング調査に加え、Ｃ区域アマモ場の中間評価及び北側護岸南部分岩礁性藻場の目標達成評価を行なうこととした。

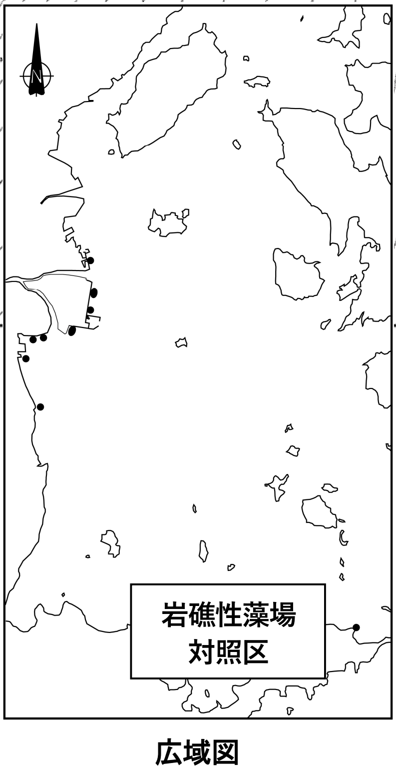
【用語説明】

対照区

モニタリング区が周辺と同様の藻場であるかを判断するための区域であり、埋立地から離れ、埋立による影響が及びにくい藻場が選定されている。

岩礁性藻場対照区
天然藻場対照区
岩礁性藻場対照区
天然藻場対照区
北側護岸
北側調査測線
岩礁性藻場
C区域
南側護岸
南側調査測線
天然藻場対照区

調査区域


岩礁性藻場
対照区

広域図